

番組審議委員会議事録

松竹ブロードキャスティング 株式会社

- 1.開催年月日 平成 28 年 12 月 12 日（月） 12：00～13：30
- 2.開催場所 銀座東武ホテル
- 3.委員の出席 委員総数 7 名
出席委員数 5 名（伊藤信太郎、堀江ミエ子、松本淳、
太田博、植草信和）
欠席委員数 2 名（坂田藤十郎、松本行央）
- 4.放送事業者側出席 4 名（井田寛 [代表取締役社長]、藤本弘之 [取締役・編成担当]、
鵜澤由紀 [衛星劇場部・部長]、松野俊一 [ホームド
ラマチャンネル部・副部長]）
- 5.議事の概要
- ・ 経営報告
 - ・ 衛星劇場の現状報告
 - ・ ホームドラマチャンネルの現状報告
 - ・ 質疑応答

6.議事内容

○経営報告

- ・ 2016 年も厳しいマーケット状況が続く中、今期の売上は前年以上、及び予算をクリアしそうである。
- ・ ペイチャンネルの衛星劇場は、特に韓国ドラマの人気作品を途切れることなく編成したことにより、健闘している。またホームドラマチャンネルは、契約数を伸ばしており、J・COM では視聴率でトップ 10 位内をキープ、週間最高視聴率で 2 位を獲得した。

- ・我々を取り巻く環境は年々厳しくなり、スカパーは年間を通してマイナスが続き、ケーブルルートの J:COM だけが一人勝ちとなった。
- ・スカパーからは、放送に加え、放送を同時配信する IP リニアを推進するという発表があった。放送の同時配信は、権利が別になることから、参入は難しいのが現状である。スカパーのチャンネルの中ではニュース、スポーツを軸に 51 チャンネルが IP リニア配信をスタートさせた。今後は権利問題をクリアしていくことが最大の課題。

○衛星劇場チャンネル

- ・今年、衛星劇場は 25 周年を迎え、新しいチャレンジを編成、宣伝で行った。
- ・邦画、韓流、舞台の 3 本柱を中心に編成。その中でも韓国ドラマは加入の中心となるので、強いタイトルを獲得することが必須。今年は韓国で視聴率 38.8% を記録した「太陽の末裔」を日本初で 6 月し、加入につなげる事が出来た。それをキープするために 9 月以降には「獄中花」「W」などを編成して、コンスタントに視聴者獲得につなげている。中国資本が入った作品のクオリティが高かったが、関係悪化により今後はクオリティが保てるかが心配である。
- ・25 周年のチャレンジとしてはライブ作品とバラエティ作品を増枠した。若い世代の獲得も目指した。
- ・邦画では、日活ロマンポルノの公開 45 周年、リブート版の公開に合わせて特集を組み、普段とは違う切り口で編成を行った。
- ・「衛星劇場でしか観ることが出来ない作品」をキーワードに、懐かしい映画、サイレント映画などの編成にも力を入れた。それに関連したものでは、大林監督のサイレント映画の番組の書籍化を 2 年前くらいから企画し、イベント開催が出来たことは、大きな成果だと思う。また「突貫小僧 現存最長版」をテレビ初放送で出来たことも松竹映画を放送している衛星劇場としては、1 つの流れが出来ている。
- ・舞台では、歌舞伎のテレビ初放送、狂言を編成。ただ、1 演目ごとに加入解約を繰り返すこともあるので、そこは今後の課題。その 1 つ施策として、来年 2 月から 2.5 次元舞台を編成していく。舞台のジャンルを増やすことで、新たな視聴者を獲得しようと務める。
- ・ドラマは、「ホロウ・クラウン」という作品を編成したが、費用対効果としては厳しいものがあった。11 月から「ララミー牧場」を HD 初で放送開始。こちらは SNS 世代ではないが、新聞を中心に宣伝を行い、加入につなげていきたい。

○ホームドラマチャンネル

- ・韓国ドラマ、時代劇、国内ドラマの3本柱の基本方針は変わらずに編成。
- ・4月以降、J・COM視聴率に関しては10位以内を、下期は5位あたりをキープ。
- ・昨年に続き韓国ドラマはベーシック初放送を基準に編成。その効果が出た感じで、韓国ドラマの視聴率は好調をキープしている。その中でもイルイルドラマの日本初放送を獲得し、それが好調で視聴率を牽引した。今後は好調なイルイルドラマの枠を追加し、さらなる視聴率アップを目指す。
- ・時代劇は、松竹作品の「鬼平・剣客・必殺」シリーズをメインに放送。今年から放送を始めた東映の時代劇も好調であった。来年からは放送が終了したばかりのテレビ東京の「石川五右衛門」をCS初放送で獲得する予定である。
- ・国内ドラマでは、CS初作品に重きを置いて編成。テレビ東京の深夜枠の作品を編成し、当初は視聴率も振るわなかったが、夏頃からは認知されてきたようで、アップしてきた。来年にはNHK作品をCS初放送で編成予定。40代女性をターゲットにして作品を集め、視聴率アップにつなげていきたい。また「釣りバカ日誌」のドラマ版の放送に関しては大変好評で、来年1月2日にスペシャル版の放送が、またシーズン2も放送予定なので、こちらの獲得にも努めたい。
- ・毎月の特集では、松竹映画に絡めた特集を行う。今年はこれに加え時代劇の特集を増やしたが、視聴率アップにつながった。
- ・年末年始、ゴールデンウィークの特別編成も行い、今年のゴールデンウィークは、「鬼平犯科帳」「剣客商売」を連続放送。去年の「鬼平犯科帳 3DAYS」程ではないが、結果を出すことができた。
- ・その他、バラエティでは、アイドルグループの作品を放送して、新たな視聴者獲得を目指した。

○質疑応答

Q：2.5次元の舞台とはどういうものなのでしょうか？

A：コミックや漫画、アニメを実写化したもの。キャストに求められるのは、アニメの世界を裏切らないこと。若手の成長を見ることが楽しみというファンも多い。

Q：視聴率はどうやって取っているのでしょうか？

A：J：COMの視聴率を取っている。ずっと同じ人で調査するのではなく、入れ替えがあるのでその時期に当たると順位の変動がある。

Q：衛星放送が今後通用していくには、どういう方向に向かって行くべきなのか？VOD、一般放送で満足しない人たちが増えて着ている中で、2.5次元舞台などの新しいジャンルに取り組むことが必要なのではないか？

A：今のライフスタイルにあった形で事業が出来ればいいが、それにはいろいろな権利が関わってくるのでなかなか難しい。そこで視聴者へのサービスとしてイベントを開催し、そこに参加してもらおうような企画をし、少しずつ実施している。今後も我々にしかできないイベントをすることで視聴者とつながっていきたいと思っている。

以上